

美原区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
美原区ブックスタート事業		美原図書館・美原区役所企画総務課・美原保健センター			
事業目的	事業効果	活動指標	H29	H30	R1
赤ちゃんに絵本を贈呈し、保護者と赤ちゃんに絵本の読み聞かせを行う。同時に保護者に絵本とその読み聞かせの効用と大切さを普及、啓発する。読み聞かせを通じ保護者と赤ちゃんで心を通わせることにより、親子の絆を深め、言葉の大切さを伝えることを目的とする。	保護者と赤ちゃんに絵本の読み聞かせを行うことで、保護者に絵本とその読み聞かせの効用と大切さを普及啓発する。また、絵本を贈ることで、保護者と赤ちゃんの触れ合いが生まれ、絆が深まる。絵本に興味を持ち、図書館を訪れることで、乳幼児を持つ保護者同士のふれあいのきっかけとなる。	4か月児健診時の絵本配布率	99.2%	99.6%	98.1%
		絵本の貸出冊数	52,952	50,929	45,931
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性		
○	4か月児健診を機会とすることで、区民に等しく絵本と読み聞かせの効用や大切さを普及し、また図書館の利用促進につながる事業であるため、行政が実施すべきである。	○	絵本の読み聞かせを実施することで、保護者と赤ちゃんに絵本の楽しさを実感してもらい、家庭でも絵本を開ききっかけとなる。また、絵本の読み聞かせを通じて、保護者と赤ちゃんの触れ合いの時間が増すことが期待できる。	○	乳幼児期は成長が早く、さまざまなことを吸収しやすいため、保護者と赤ちゃんの触れ合い(子どもへの語りかけ)は重要で、場所を選ばず楽しめる絵本は有効である。また、4か月児健診の受診率はほぼ100%で、必要な時期に等しく区民に絵本と読み聞かせについて啓発できるため効率的である。
⑤自立発展性	総合評価				
△	市民ボランティアが協働して図書館や保健センターで読み聞かせを実施しているが、配布する絵本の購入は行政で行う必要がある。	○	ブックスタートがきっかけで図書館に来館される保護者と赤ちゃんもおり、図書館の各種ある催しの中でも、乳幼児向けおはなし会への参加者が一番多い。家庭での読み聞かせを通して保護者と赤ちゃんの触れ合いの時間が増え、乳児の言葉の獲得につながっている。		
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	市民ボランティアと協働することにより、きめ細かい読み聞かせが実現している。今後も、市民ボランティアの研修の場を確保し、スキルアップをめざすとともに、新たなボランティアを養成するための講座を実施し、ブックスタート事業を更に充実させていきたい。				